

益田市立小中学校の整備について答申

平成25年5月10日

益田市立学校整備計画審議会

本審議会は、平成25年2月25日、益田市教育委員会から「益田市立小中学校の整備について」の諮問を受け、慎重に協議し、答申を取りまとめました。

本市の学校施設は、建築後相当の年数が経過し、老朽化や今後耐用年数の到来による建替え時期の集中、また、その耐震性能の確保など様々な懸案事項を抱えています。文部科学省においても、平成27年度までのできるだけ早い時期に、公立の学校施設の耐震化を完了させるという目標の実現に向け、必要な予算の確保を図っており、本市としても学校施設の耐震化を最優先とした施設整備を計画的に行い、早期の完了を目指す必要があります。

本審議会としては、学校施設が多くの子供生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、耐震化や施設の建替え、維持補修なども含めた必要な整備を行い、安全で豊かな教育環境を確保することが最重要と考えます。

つきましては、本答申が益田市の子どもたちのための、より良い教育環境の整備に資するため、最大限尊重されることを期待するものです。

益田市立小中学校施設整備の方向性

1. 耐震性能の低い施設から最優先に整備する。

学校施設の整備については、大きく老朽化に伴う施設整備と耐震化に伴う施設整備があるが、子どもたちが過ごす学校施設の安全確保と地域の防災拠点整備の観点から、耐震化に伴う施設整備を最優先とし、基本的には構造耐震指標の低い施設から整備を行う。

2. 整備手法としては、原則として耐震補強を優先に整備する。

整備手法の選定については、対象施設の構造耐震指標、建設年度、立地条件等を勘案し、耐震補強、改築（老朽化による危険改築と耐震化による不適格改築）、長寿命化改良、大規模改造の4つの手法から選定する。

3. 学校再編との整合性を図る。

施設整備については、学校再編の状況等との整合性を図り、地元の意見等も勘案しながら整備を進める。

4. 施設の維持補修等については、学校の実情に合わせて計画的に実施する。

耐震化に伴う施設整備と並行して、学校施設の維持補修や改善に係るものについても、施設の状況や学校の要望等、実情に合わせ適宜整備する。